

赤字の部分は、7/12常任委員会報告時点から加筆・修正をした部分です。

これからの県立高等学校の在り方について(検討状況)概要

～(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』～

背景 ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応
策定趣旨 ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す
対象期間 ○令和4年度から令和13年度の10年間



これまでの主な県立高等学校改革

- H18 県立普通科高校通学区域全県一区制
- H24 県立高校再編計画策定

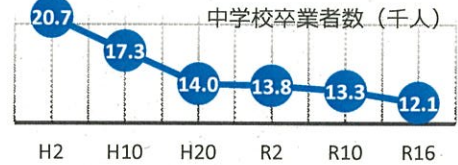
現行再編計画の総括

- 統合新校設置(長浜北・彦根翔西館)
 - ・学校統合により地域全体の学校活力向上
 - ・社会性の涵養、部活動の活性化
- 総合単科制高校設置、職業系専門学科改編等
 - ・不登校傾向が改善し卒業
- 全県一区制度のもと、国や県の指定事業等の活用や地域、大学等との連携による魅力ある学校づくりの一定の進展
- 普通科高校や人口減少地域の学校の更なる魅力化、発信力の強化が必要
- 計画策定過程で地域との双方向の議論が必要

県立高等学校を取り巻く現状と課題

◆生徒数の減少

- ・H2.3卒のピークから▲7,000人34%減
- ・R16.3卒は更に▲1,700人 H2.3卒から42%減



◆社会情勢の変化

- ・人口減少と少子高齢化
- ・グローバル化の進展
- ・第4次産業革命とSociety5.0
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大

◆国の動き

- ・学習指導要領改訂:社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び
- ・新時代に対応した高等学校教育の在り方 普通科改革等

◆特別な教育的支援が必要な生徒の増加

- ・中学校の特別支援学級から高校へ進学する生徒増加(H20(13%)→H30(54%))
- ・高校で特別な教育的支援が必要な生徒の割合は増加傾向(H22(2%)→R1(5%))

将来の社会の姿

- ◇人口減少と高齢化の更なる進行
- ◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
- ◇コロナ禍を経た生活様式の変化
- ◇大規模災害などの発生リスク
- ◇持続可能な社会の実現(SDGs)
- ◇多様な価値観が尊重される社会

想像はできるが予測できないことが起こりうる

高等学校への希望や期待

～アンケートや意見聴取から～

◇生徒の立場から <中高生7,688人回答> <大学生等>

- ・文武両道に励みたい
- ・将来のことをじっくり考えたい
- ・校舎をリニューアルしてほしい
- ・生徒や先生が団結できる行事があるとよい
- ・インターネットを活用した授業を増やしてほしい 等

<県立高校1,2年生>
○在籍している高校の満足度(全日制)
満足82%(友人関係、部活動、授業)
不満18%(授業、校風、施設・設備)

◇保護者の立場から <保護者6,894人回答>

- ・子供の可能性を拡げてやりたい
- ・基礎から学べるようにしてほしい
- ・学力向上だけでなく、人間性を高めてほしい
- ・オンライン授業等に力を入れてほしい 等

<中学1,2年生保護者>
○子供に進学させたい高校
県立高校88% 県内私立高校4%
○高校に期待すること
自分の進路希望や興味・関心等に応じた科目選択ができる63%

◇地域社会の視点 <市長会、町村会、市町教委等>

- ・地域活性化に貢献する生徒を育ててほしい
- ・地域にとって高校の存在は大きい
- ・在り方検討で高校再編とせず、地域の声を聴いてほしい 等

◇産業界の視点 <県内企業関係者等>

- ・専門的に教育して、高校卒業してすぐに社会に役立つ人材を育ててほしい
- ・企業等と連携することが必要 等

◇教職員の立場から <中学校・高校管理職、中堅教諭等>

- ・人間性を高めるため、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切に、いろいろな経験ができる教育活動を工夫したい
- ・一定の規模で教員数も充実した状況が必要 等

◇卒業後の進学先の視点 <大学、短大、専修学校等>

- ・ディスカッションをする際に、根拠のある意見を述べる力の育成が必要
- ・大学に進学を希望する際、自身の関心や志向を見つめなおして学問と接続していくことが必要
- ・職業系専門学科では現場体験など実体験の機会を増やし、職業へのあこがれを育むことが重要 等

◇その他学校関係者の視点 <スクールカウンセラー、塾等>

- ・対人不安の強い生徒達が同じ教室で学ぶことの難しさが、先生方が様々なスキルを身に付けられるよう支援が必要
- ・中学生にとって高校に触れるという体験は大きく、オープンスクールのように直接情報を届けることが大事 等

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の教育理念 未来を拓く心豊かでたくましい人づくり

育成すべき生徒像 生きる力(自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等)がある

高等学校の役割 生きる力を育む場
好奇心や探究心を更に発展させる場
「答えを見つける」教育から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場へ

魅力化の視点 ◎多様性のある社会や人口減少社会への対応等を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、ICTを活用し、持続可能な形で実施する
◎森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高校でその学びを地域とともに推進する

目指す姿 ■高等学校別 ◆県域全体

- ①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
→◇全ての生徒に自分を高める学びが提供されている
→◇多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深い発見できる学びが提供されている
- ②生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる
→■グローバル人材や科学技術人材が育成されている
→■大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
→◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
- ③生徒同士が切磋琢磨し成長できる
→■学校行事や部活動が活性化している
→◇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した場が提供されている
- ④場所や時間を選ばない学びができる
→◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
- ⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
→■地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている
→■産業界と連携した学びが提供されている
- ⑥障害のある者となし者が互いに学び合い互いを尊重できる
→◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
- ⑦生徒が自らに合った学びを選択できる
→■それぞれの県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
→■基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている
→◇県内どの地域でも様々な学びが提供されている
→◇経済的に不利な環境にある生徒への支援が充実している
→◇男女の人権や性の多様性が尊重される学校づくりが進んでいる
- ⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている
→◇授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

滋賀の県立高等学校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める

1 「滋賀」に学ぶ 滋賀の自然、歴史、文化、人、産業等を教育資源とした学びの充実 ◎知識・技能を活用し課題を解決する確かな学力の育成 ◎自立した社会人を育てるキャリア教育の充実 ◎生徒の学び意欲を育むための多様な学習ニーズ等への対応	2 「滋賀」で学ぶ 魅力と活力ある取組を明確にし、見える化する学校づくり ◎普通科の特色化(全県一区制度継続)(普通科系専門学科を含む) ◎職業系専門学科等の特色化・高度化 ◎定時制/通信制の役割への対応
1と2を支える環境整備 ◎多様な学びの提供や人と人のつながりの創出等、生徒数減少への対応 ◎多様な学びを実現するICTを活用した教育の提供 ◎生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成 ◎持続可能な推進体制の構築	オンラインの学校づくり ↓ 魅力発信

取組の方向性

- ア 確かな学力の育成
→「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 [目指す姿①⑧]
→「読み解く力」をもとにした探究的に学ぶ力の育成 [1]
- イ キャリア教育の充実
→小中学校と高校、大学等の連続性を踏まえたキャリア教育の推進(タテの連携) [1⑤]
→地元企業などの地域の教育資源を活用したキャリア教育の推進(ヨコの連携) [1⑤]
- ウ 多様な学習ニーズ等への対応
→特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実 [6]
→日本語指導が必要な生徒等への支援の充実 [7]
→不登校生徒への支援の充実 [7]
→基礎学力充実のための取組の工夫 [7]
→経済的に不利な環境にある生徒への支援の充実 [7]
→男女の人権や性の多様性が尊重される教育の推進 [7]
- エ 普通科の特色化(普通科系専門学科を含む) [1②③⑤⑦]
→普通科の学科改編やコース、類型の設置 [2]
→グローバル人材、科学技術人材の育成 [7]
→普通科系専門学科(音楽・美術等)の学びを継続するための工夫
→高校の特色のPR [7]
- オ 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化 [1②③⑤]
→Society5.0社会に対応した人材育成 [6⑦]
→地域や産業界と連携した産業教育 [5⑦]
→職業教育の推進にかかる環境整備 [7]
→職業系学科の魅力伝える方策 [7]
- カ 定時制/通信制の役割への対応 [3⑦]
→多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供
- キ 生徒数減少への対応 [6⑦]
→これまで以上に地域と連携・協働した学校づくりの推進 [7]
→多様な学びを実現するための少人数学級の工夫 [6⑦]
→市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等の設置や磨き上げ [1②③⑤⑦]
→普通科の学科改編やコース、類型の設置 [3]
→学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究
- ク ICTの活用 [1④]
→全ての県立高校でICT環境の充実・更新 [1④]
→ICT活用のコンテンツ等の共有化 [1⑧]
→教職員のICTを活用するための研修等の充実
- ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成 [8]
→優秀で意欲のある人材の確保 [6⑧]
→研修の充実
- コ 持続可能な推進体制の構築 [1⑤]
→地域と連携・協働した学校づくりの推進 [8]
→働き方改革の推進 [7]
→経営方針の明確化
- サ その他
→モデル校等による取組内容の実践・研究
→高等専門学校設置に関する知事部局との連携

将来を見据えた整理

- 1 県立高等学校と私学との関係について
◇滋賀の高校教育について、公私が建設的に議論する定期的な協議の場が必要
- 2 県立高等学校の学校規模について
◇規模の大小にはそれぞれメリット・デメリットがあり、それぞれに特徴がある
◇地域の実情に応じた様々な規模の高校において、生徒の力を伸ばす教育が必要
- 3 将来に向けた議論の必要性について
◇県立高校は地域活性化等の多面的な機能をもつ→市町等の関係者との議論が必要
◇県が全県的視野から魅力化の方向性を提示→関係者の意見を丁寧に聞き魅力化を図る
- 4 入学者選抜の在り方について
◇時代の変化とともに、より良い選抜方法の課題整理と検討が必要